

(5) 普天間飛行場の現状

飛行場周辺は、住宅密集地で、飛行場が立地する宜野湾市には約9万8千人が住み、小中学校が15校、高等学校が4校、大学が1校あるなど、人口が密集する市街地となっています。

普天間飛行場は、市街地の中心部に位置し、世界一危険とも言われ、2004年8月13日には、沖縄国際大学構内に大型ヘリが墜落するなど、周辺住民に大きな不安を与えています。

また、航空機騒音規制措置で飛行が制限されている22時以降においても夜間訓練が実施されることもあり、周辺住民は、日常的な騒音や航空機事故等の危険性と隣り合わせの生活を余儀なくされています。

(6) これまで普天間飛行場移設問題が解決していない理由

普天間飛行場については、1996年4月、当時の橋本総理及びモンデール駐日大使の共同記者会見により全面返還が発表されました。しかしながら、1996年12月のSACO最終報告において、県内移設が条件となり、県民の理解が得られないまま進められてきたことが、この問題が今日まで解決していない原因であると考えています。



普天間飛行場は、宜野湾市のほぼ中央にあり、同市を東西に分断している。